阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

PLAN	No. 28 ー 1	基本事務事業名	適応指導事業	事務事業名	適応指導事業	公的関与	9	シート作成日	平成29年6月14日
	部局名	教育委員会	課名	学校教育課	主務課長名	成谷　史代	シート作成者名	湯佐　恵里子	
	事業区分	◉ 1 ソフト事業	○ 3 経常的事務事業	○ 5 補助金・負担金・支援	事業運営方法	☑ 1 直営	☐ 3 全部委託		
		○ 2 ハード事業	○ 4 施設の維持管理	○ 6 内部管理事務・その他		☐ 2 一部委託	☐ 4 補助等		
	総合計画	基本構想(政策)	1．人が輝くまちづくり	実施計画	事業の開始・終了				
		基本計画(施策)	(1)学校教育の充実	◉ 1 該当	平成　年 ～ 平成　年	☑ 期間設定なし			
		主要施策	(4)心の問題への対応	○ 2 非該当	根拠法令等	阿波市適応指導教室の設置及び運営に関する要綱			
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)	阿波市内の学校に登校しにくい児童生徒						
		目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	学校に登校しにくい児童生徒たちに、情緒の安定、基本的生活習慣の改善、集団生活への適応、基礎学力の補充等の相談や指導を行い、学校への復帰や社会的に自立する力を養います。					
			今年度						
	事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)							
		① 教科学習：利用者個々の学習状況を基に個別指導計画を立て、基礎学力補充等の学習指導を行います。							
		② 体験活動：農作業、職業体験、自然体験、スポーツ活動、調理実習、地域行事への参加等を通じて社会的に自立する力を養います。							
		③ 相談活動：集団生活、悩み、進路、将来等、個々の課題についての相談を通じて自己形成への支援を行います。							
		④ 訪問活動：適応指導教室に通級できない問題がある子どもたちを定期的に家庭訪問して、保護者を交えた聞き取り状況調査による適応指導を行っています。							
		⑤ 関係機関との連携：不登校問題に対する運営協議会、担任教諭、民生委員児童委員等の関係機関との連携を密にして、学校復帰に向けた支援を行っています。							

数値目標(事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名	計算式又は指標設定理由	単位		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	最終目標
	学校復帰率	学校復帰を目標としています。	%	目標	100	100	100	100
				実績	18	30		
				目標				
				実績				
				目標				
				実績				

DO	予算費目	会　計	一般会計	款	10	教育費	項	1	教育総務費	目	2	適応指導費

		平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算	備考
直接事業費	国庫支出金	千円	千円	千円	
	県支出金	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	
	その他特定財源	千円	千円	千円	
	一般財源	1,036 千円	1,137 千円	1,232 千円	
	計(A)	1,036 千円	1,137 千円	1,232 千円	
人件費(B)	正職員工数・経費	0.080 人　465 千円	0.080 人　466 千円	0.080 人　474 千円	
	臨時・嘱託職種	適応指導教室指導員	適応指導教室指導員	適応指導教室指導員	
	臨時・嘱託工数・経費	1.000 人　1,800 千円	1.000 人　1,800 千円	1.000 人　1,800 千円	
全体事業費(A＋B)		3,301 千円	3,403 千円	3,506 千円	

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

CHECK

	チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価	
必要性	1．市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	○ 少ない	● 大きい	不登校の子どもたちの個々の状況を的確に把握し、関係機関と連携を密にして適応指導を行い、学校復帰や社会性に向けた支援が必要です。	○ 少ない	● 大きい
	2．厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	○ ない	● ある		○ ない	● ある
	3．住民満足度の向上のために、現在の手段、方法等の改善の余地がある。	● ある	○ ない		● ある	○ ない
	4．住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	○ いる	● いない		○ いる	● いない
有効性	1．施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	○ いえない	● いえる	不登校の子どもたちとの繋がりを持ち、安心感が感じられる居場所を提供します。在籍校と連携して、子どもたちの意思や状態に合わせた効果的な支援ができます。様々な体験活動を通し、自分自身への理解と自信を	○ いえない	● いえる
	2．事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	○ いえない	● いえる		○ いえない	● いえる
	3．市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	○ する	● しない		○ する	● しない
	4．事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	○ できない	● できる		○ できない	● できる
達成度	1．目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	○ 目標に比べて劣っている		学校復帰ができた生徒もいましたが、まずは、自宅から阿波っ子スクールに通うことも大切であり、悩みや不安を抱える子どもたちに、安心感が得られる居場所が提供できつつあります。	○ 目標に比べて劣っている	
	2．目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	○ あまり上がっていない			○ あまり上がっていない	
	3．目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	● 概ね達成している			● 概ね達成している	
	4．目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	○ 十分達成している			○ 十分達成している	
効率性	1．効果に比べてコストが高い。	○ 高い	● 適当	不登校の子どもたちをださないように、基礎学力の補充のみならず、農業体験やスポーツ活動等の実践的な指導や取組を行うものであるから、事務内容の見直し等によるコスト面の削減の余地は少ないと思います。	○ 高い	● 適当
	2．他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	● できる	○ できない		● できる	○ できない
	3．予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	○ ある	● ない		○ ある	● ない
	4．電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	○ ある	● ない		○ ある	● ない

ACTION

	一次評価					二次評価				
評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
	3	4	3	3	A	3	4	3	3	A
今後の方向性	○ 拡大・充実	● 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等		○ 拡大・充実	● 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等	
	○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止			○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止		
当面の課題	中学校卒業後も何らかの支援を必要としている者にとっての継続的及び長期的な支援が必要です。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点 在籍校との連携を密にして、子どもたちの意識や状態に合わせた効果的な支援をしてください。				
改革案と実行計画	支援するための連携のあり方について、支援体制の充実、スクールカウンセラーとの連携、家庭に対しての支援やはたらきかけのタイミング等、関係機関と常に情報交換していきます。									
委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

No.	28	ー	2	基本事務事業名	外国青年招致事業	事務事業名	外国青年招致事業	公的関与	9	シート作成日	平成29年6月14日
部局名	教育委員会	課名	学校教育課	主務課長名	成谷　史代	シート作成者名	湯佐　恵里子				

PLAN

事業区分			事業運営方法	
◉ 1 ソフト事業	○ 3 経常的事務事業	○ 5 補助金・負担金・支援	☐ 1 直営	☐ 3 全部委託
○ 2 ハード事業	○ 4 施設の維持管理	○ 6 内部管理事務・その他	☑ 2 一部委託	☐ 4 補助等

総合計画		実施計画	事業の開始・終了
基本構想(政策)	1．人が輝くまちづくり		
基本計画(施策)	(1)学校教育の充実	◉ 1 該当	平成　年 ～ 平成　年 ☑ 期間設定なし
主要施策	(2)「生きる力」の育成を重視した教育内容の充実	○ 2 非該当	根拠法令等

事業の対象・目的		
対象(誰を、何を)		阿波市内すべての小学校・中学校及び地域住民
目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	外国人講師による生きた英語に触れることで英語を身近なものとして慣れ親しみ、コミュニケーション能力を養い英語力の向上を目指します。
	今年度	

事業の活動内容

具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)

① 中学校英語教育の指導、英語講師へのサポート及び教材の作成支援を行います。
② 小学校と連携した英語教育の充実に取り組みます。
③ 地域住民を対象とした英会話教室を開催し、英語に対する理解を深めることにより、地域住民とのコミュニケーションを図ります。
④
⑤

数値目標(事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)

指標名	計算式又は指標設定理由	単位		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	最終目標
配置校	市内4中学校に配置しています。	校	目標	4	4	4	4
			実績	4	4		
幼稚園英語活動(試行)回数	各幼稚園で、英語講師とALTが英語活動を行います。	回数	目標		3	6	6
			実績		3		
			目標				
			実績				

DO

予算費目	会　計	一般会計	款	10	教育費	項	1	教育総務費	目	3	外国青年招致事業費

		平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算	備考
直接事業費	国庫支出金	千円	千円	千円	
	県支出金	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	
	その他特定財源	1,342 千円	1,461 千円	1,447 千円	
	一般財源	2,046 千円	3,685 千円	2,684 千円	
	計(A)	3,388 千円	5,146 千円	4,131 千円	
人件費(B)	正職員工数・経費	0.100 人　581 千円	0.100 人　582 千円	0.100 人　593 千円	
	臨時・嘱託職種	ALT(英語指導講師)	ALT(英語指導講師)	ALT(英語指導講師)	
	臨時・嘱託工数・経費	4.000 人　14,400 千円	4.000 人　14,400 千円	4.000 人　14,400 千円	
全体事業費(A＋B)		18,369 千円	20,128 千円	19,124 千円	

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

CHECK

	チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価	
必要性	1．市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	○ 少ない	● 大きい	英語を身近なものととらえ、コミュニケーション能力の向上や、国際理解を深めることを目的とした事業であり、そのための必要な人的環境の整備は行政の責務なので、この事業の必要性は大きいといえます。	○ 少ない	● 大きい
	2．厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	○ ない	● ある		○ ない	● ある
	3．住民満足度の向上のために、現在の手段、方法等の改善の余地がある。	● ある	○ ない		● ある	○ ない
	4．住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	○ いる	● いない		○ いる	● いない
有効性	1．施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	○ いえない	● いえる	小学校の英語教科化に向け、英語に対する意欲を深め、英語力の向上を目的とした貢献度は高いものがあります。また、英語に触れる機会が多いほど成果の向上が期待できます。	○ いえない	● いえる
	2．事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	○ いえない	● いえる		○ いえない	● いえる
	3．市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	○ する	● しない		○ する	● しない
	4．事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	○ できない	● できる		○ できない	● できる
達成度	1．目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	○ 目標に比べて劣っている		子どもたちにとっては、生きた英語に触れる楽しさを体験できることで、外国の文化や言葉に対する興味や関心を高めることができています。	○ 目標に比べて劣っている	
	2．目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	○ あまり上がっていない			○ あまり上がっていない	
	3．目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	○ 概ね達成している			● 概ね達成している	
	4．目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	● 十分達成している			○ 十分達成している	
効率性	1．効果に比べてコストが高い。	● 高い	○ 適当	費用面では厳しいものがあります。民間事業者への委託を見据えたコスト面の見直しも必要と思われます。	● 高い	○ 適当
	2．他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	● できる	○ できない		● できる	○ できない
	3．予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	○ ある	● ない		○ ある	● ない
	4．電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	○ ある	● ない		○ ある	● ない

ACTION

	一次評価					二次評価				
評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
	3	4	4	2	A	3	4	3	2	B
今後の方向性	○ 拡大・充実	● 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等		○ 拡大・充実	● 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等	
	○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止			○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止		
当面の課題	自治体国際化協会の斡旋により招致していることで、講師個々の能力や適応性等に個人差があるので対応に苦慮することがあります。コスト面、適応性等を考慮検討していく必要があります。週35時間の勤務の中で、幼稚園・小学校での勤務時間の調整が困難です。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点 事業効果の検証方法についても検討に努めてください。				
改革案と実行計画	慣れない日本生活により1年で帰国するケースもあるので、生活に対する不安を解消し、より充実した活動を支援していきます。また同時に、コスト面等から民間事業者委託も視野に入れた検討も行います。									
委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

PLAN	No. 28 ー 3	基本事務事業名	小学校管理運営事務	事務事業名	小学校管理運営事務	公的関与	1	シート作成日	平成29年7月5日
	部局名	教育委員会	課名	学校教育課	主務課長名	成谷　史代		シート作成者名	坂東　秀和
	事業区分	○ 1 ソフト事業	◉ 3 経常的事務事業	○ 5 補助金・負担金・支援	事業運営方法	☑ 1 直営		☐ 3 全部委託	
		○ 2 ハード事業	○ 4 施設の維持管理	○ 6 内部管理事務・その他		☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等	
	総合計画	基本構想(政策)	1．人が輝くまちづくり	実施計画	事業の開始・終了				
		基本計画(施策)	(1)学校教育の充実	◉ 1 該当	平成　年 ～ 平成　年	☑ 期間設定なし			
		主要施策	(1)学校施設の整備	○ 2 非該当	根拠法令等	学校教育法、教育基本法、学校保健法			
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)	阿波市内全ての小学校						
		目的(どういう状態にしたいのか) 最終的	教育施設の維持管理を適切に行い、良好な教育環境を提供することで子どもたちの健全な育成を図ります。						
		今年度							
	事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)							
		① 小学校施設の管理業務を専門業者に委託して適正な維持・管理を行います。							
		② 学校医、歯科医による児童及び職員の健康の保持増進や、薬剤師による学校の環境衛生の維持・改善を図り、学校教育の円滑な運営を推進します。							
		③ スクールバスの適正な維持管理や運行業務を委託して児童の安全な送迎を行います。							
		④ 学校教育の充実・発展に必要な備品購入を適正に行います。							
		⑤							

数値目標(事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名	計算式又は指標設定理由	単位		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	最終目標
	業務委託項目数	経常的管理業務なので目標値設定にはなじまない。	数	目標				
				実績	11	11		
				目標				
				実績				
				目標				
				実績				

DO	予算費目	会　計	一般会計	款	10	教育費	項	2	小学校費	目	1	学校管理費

		平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算	備考
直接事業費	国庫支出金	千円	千円	千円	
	県支出金	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	
	その他特定財源	千円	千円	千円	
	一般財源	29,127 千円	27,971 千円	29,583 千円	
	計(A)	29,127 千円	27,971 千円	29,583 千円	
人件費(B)	正職員工数・経費	0.300 人 1,743 千円	0.300 人 1,746 千円	0.300 人 1,779 千円	
	臨時・嘱託職種	学校用務員	学校用務員	学校用務員	
	臨時・嘱託工数・経費	7.000 人 11,144 千円	7.000 人 11,497 千円	7.000 人 11,497 千円	
全体事業費(A＋B)		42,014 千円	41,214 千円	42,859 千円	

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

CHECK

	チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価	
必要性	1．市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	○ 少ない	◉ 大きい	児童が1日の大半を過ごす場所なので、安全・安心で快適な環境を提供する必要があることから、継続した施設の維持・管理は必要です。	○ 少ない	◉ 大きい
	2．厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	○ ない	◉ ある		○ ない	◉ ある
	3．住民満足度の向上のために、現在の手段、方法等の改善の余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない
	4．住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	○ いる	◉ いない		○ いる	◉ いない
有効性	1．施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	○ いえない	◉ いえる	学校施設は災害時の避難場所でもあるので、日常の適正な管理により良好な環境が維持できます。	○ いえない	◉ いえる
	2．事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	○ いえない	◉ いえる		○ いえない	◉ いえる
	3．市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	○ する	◉ しない		○ する	◉ しない
	4．事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	○ できない	◉ できる		○ できない	◉ できる
達成度	1．目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	○ 目標に比べて劣っている		経年による施設の劣化もあるが、定期的に行う適正な維持・管理により、良好な教育環境が維持できています。	○ 目標に比べて劣っている	
	2．目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	○ あまり上がっていない			○ あまり上がっていない	
	3．目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	◉ 概ね達成している			◉ 概ね達成している	
	4．目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	○ 十分達成している			○ 十分達成している	
効率性	1．効果に比べてコストが高い。	○ 高い	◉ 適当	委託業者については、審査委員会で審議し、適格業者の選定を行っています。また、長期継続契約の適正な推進により、コスト削減に努めています。	○ 高い	◉ 適当
	2．他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	◉ できる	○ できない		◉ できる	○ できない
	3．予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	◉ ある	○ ない		◉ ある	○ ない
	4．電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない

ACTION

	一次評価					二次評価				
評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
	4	4	3	2	B	4	4	3	2	B
今後の方向性	○ 拡大・充実	◉ 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等		○ 拡大・充実	◉ 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等	
	○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止			○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止		
当面の課題	厳しい財政事情で経営的経費にも削減が求められる状況ではあるが、子どもたちの安全性を考えると現状の管理業務は必要です。しかし、コスト面からすると見直しの検討も必要です。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点 安全で安心な教育環境の提供のため、適正な施設管理に努めてください。				
改革案と実行計画	平成20年度から簡易な修繕は建設労働組合阿波支部の協力により実施しています。今後も関係機関と協力、連携して適正な維持・管理を行います。									
委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

PLAN	No. 28 ー 4	基本事務事業名	小学校教育振興補助事業	事務事業名	小学校教育振興補助事業	公的関与	1	シート作成日	平成29年7月3日
	部局名	教育委員会	課名	学校教育課	主務課長名	成谷　史代		シート作成者名	曽我部　勉
	事業区分	○ 1 ソフト事業	○ 3 経常的事務事業	◉ 5 補助金・負担金・支援	事業運営方法	☑ 1 直営		☐ 3 全部委託	
		○ 2 ハード事業	○ 4 施設の維持管理	○ 6 内部管理事務・その他		☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等	
	総合計画	基本構想(政策)	1．人が輝くまちづくり	実施計画	事業の開始・終了				
		基本計画(施策)	(1)学校教育の充実	◉ 1 該当	平成　年 ～ 平成　年	☑ 期間設定なし			
		主要施策	(2)「生きる力」の育成を重視した教育内容の充実	○ 2 非該当	根拠法令等	学校教育法、教育基本法			
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)	阿波市内全ての小学校児童						
		目的(どういう状態にしたいのか) 最終的	小学校教育が円滑で継続的に実施されるよう、必要な財政上の支援を講じて教育の振興を図ります。						
		今年度							
	事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)							
		① 遠距離通学の児童に必要な通学費補助を行います。							
		② 特別支援学級の円滑な運営に必要な補助を行います。							
		③ 教育研究大会の円滑な運営に必要な補助を行います。							
		④							
		⑤							

数値目標(事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名	計算式又は指標設定理由	単位		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	最終目標
	補助項目	教育行政の責務なので目標値設定にはなじまない。	数	目標				
				実績	3	3		
				目標				
				実績				
				目標				
				実績				

DO	予算費目	会　計	一般会計	款	10	教育費	項	2	小学校費	目	2	教育振興費

		平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算	備考
直接事業費	国庫支出金	千円	千円	千円	
	県支出金	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	
	その他特定財源	千円	千円	千円	
	一般財源	790 千円	815 千円	950 千円	
	計(A)	790 千円	815 千円	950 千円	
人件費(B)	正職員工数・経費	0.200 人　1,162 千円	0.200 人　1,164 千円	0.200 人　1,186 千円	
	臨時・嘱託職種				
	臨時・嘱託工数・経費	人　0 千円	人　0 千円	人　0 千円	
全体事業費(A＋B)		1,952 千円	1,979 千円	2,136 千円	

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

CHECK

	チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価	
必要性	1．市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	○ 少ない	◉ 大きい	子どもたちの「生きる力」をはぐくみ、教育水準の維持向上を図るためには必要です。	○ 少ない	◉ 大きい
	2．厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	○ ない	◉ ある		○ ない	◉ ある
	3．住民満足度の向上のために、現在の手段、方法等の改善の余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない
	4．住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	○ いる	◉ いない		○ いる	◉ いない
有効性	1．施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	○ いえない	◉ いえる	子どもたちの「生きる力」の育成につながり、教育が円滑で継続的に実施されます。	○ いえない	◉ いえる
	2．事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	◉ いえない	○ いえる		◉ いえない	○ いえる
	3．市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	○ する	◉ しない		○ する	◉ しない
	4．事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	○ できない	◉ できる		○ できない	◉ できる
達成度	1．目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	○ 目標に比べて劣っている		小学校教育の振興が図られています。	○ 目標に比べて劣っている	
	2．目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	○ あまり上がっていない			○ あまり上がっていない	
	3．目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	◉ 概ね達成している			◉ 概ね達成している	
	4．目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	○ 十分達成している			○ 十分達成している	
効率性	1．効果に比べてコストが高い。	○ 高い	◉ 適当	教育基本法に定めるところの、教育が円滑かつ継続的に実施されるための必要な財政上の事務なので、効率化の余地は少ないと思われます。	○ 高い	◉ 適当
	2．他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	○ できる	◉ できない		○ できる	◉ できない
	3．予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	◉ ある	○ ない		◉ ある	○ ない
	4．電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない

ACTION

	一次評価					二次評価				
評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
	4	3	3	3	A	4	3	3	3	A
今後の方向性	○ 拡大・充実	◉ 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等		○ 拡大・充実	◉ 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等	
	○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止			○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止		
当面の課題	小学校教育の振興を図るためには財政上の支援は必要ですが、阿波市の厳しい財政状況を考えると、補助事業の見直しが必要です。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
改革案と実行計画	補助事業の実績や近隣自治体の交付状況等を精査して、事業効果を検討していきます。					事業実績の評価をしながら改善に努めてください。				
委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

No. 28 ー 5	基本事務事業名	中学校管理運営事務	事務事業名	中学校管理運営事務	公的関与	1	シート作成日 平成29年7月5日
部局名	教育委員会	課名	学校教育課	主務課長名	成谷　史代	シート作成者名	坂東　秀和

PLAN

事業区分	○ 1 ソフト事業	◉ 3 経常的事務事業	○ 5 補助金・負担金・支援	事業運営方法	☑ 1 直営　☐ 3 全部委託
	○ 2 ハード事業	○ 4 施設の維持管理	○ 6 内部管理事務・その他		☐ 2 一部委託　☐ 4 補助等

総合計画	基本構想(政策)	1．人が輝くまちづくり	実施計画	事業の開始・終了	
	基本計画(施策)	(1)学校教育の充実	◉ 1 該当	平成　年 ～ 平成　年	☑ 期間設定なし
	主要施策	(1)学校施設の整備	○ 2 非該当	根拠法令等	学校教育法、教育基本法、学校保健法

事業の対象・目的	対象(誰を、何を)		阿波市内全ての中学校
	目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	教育施設の維持管理を適切に行い、良好な教育環境を提供することで子どもたちの健全な育成を図ります。
		今年度	

事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)
	① 中学校施設の管理業務を専門業者に委託して適正な維持・管理を行います。
	② 学校医、歯科医による生徒及び職員の健康の保持増進や、薬剤師による学校の環境衛生の維持・改善を図り、学校教育の円滑な運営を推進します。
	③ 学校教育の充実・発展に必要な備品購入を適正に行います。
	④
	⑤

数値目標(事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名	計算式又は指標設定理由	単位		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	最終目標
	業務委託項目数	経営的管理業務なので目標設定にはなじまない。	数	目標				
				実績	11	11		
				目標				
				実績				
				目標				
				実績				

DO

予算費目	会　計	一般会計	款	10	教育費	項	3	中学校費	目	1	学校管理費

		平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算	備考
直接事業費	国庫支出金	千円	千円	千円	
	県支出金	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	
	その他特定財源	千円	千円	千円	
	一般財源	13,035 千円	12,488 千円	13,349 千円	
	計(A)	13,035 千円	12,488 千円	13,349 千円	
人件費(B)	正職員工数・経費	0.300 人　1,743 千円	0.300 人　1,746 千円	0.300 人　1,779 千円	
	臨時・嘱託職種	学校用務員	学校用務員	学校用務員	
	臨時・嘱託工数・経費	2.000 人　3,184 千円	2.000 人　3,285 千円	2.000 人　3,285 千円	
全体事業費(A＋B)		17,962 千円	17,519 千円	18,413 千円	

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

CHECK

	チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価	
必要性	1．市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	○ 少ない	◉ 大きい	生徒が1日の大半を過ごす場所なので、安全・安心で快適な環境を提供する必要があることから、継続した施設の維持・管理は必要です。	○ 少ない	◉ 大きい
	2．厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	○ ない	◉ ある		○ ない	◉ ある
	3．住民満足度の向上のために、現在の手段、方法等の改善の余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない
	4．住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	○ いる	◉ いない		○ いる	◉ いない
有効性	1．施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	○ いえない	◉ いえる	学校施設は災害時の避難場所でもあるので、日常の適正な管理により良好な環境が維持できます。	○ いえない	◉ いえる
	2．事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	○ いえない	◉ いえる		○ いえない	◉ いえる
	3．市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	○ する	◉ しない		○ する	◉ しない
	4．事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	○ できない	◉ できる		○ できない	◉ できる
達成度	1．目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	○ 目標に比べて劣っている		経年による施設の劣化等もあるが、定期的に行う適正な維持・管理により、良好な教育環境が維持できています。	○ 目標に比べて劣っている	
	2．目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	○ あまり上がっていない			○ あまり上がっていない	
	3．目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	◉ 概ね達成している			◉ 概ね達成している	
	4．目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	○ 十分達成している			○ 十分達成している	
効率性	1．効果に比べてコストが高い。	○ 高い	◉ 適当	委託業者については審査委員会で審議し、適格業者の選定を行っています。また、長期継続契約の適正な推進により、コスト消滅に努めています。	○ 高い	◉ 適当
	2．他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	◉ できる	○ できない		◉ できる	○ できない
	3．予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	◉ ある	○ ない		◉ ある	○ ない
	4．電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない

ACTION

	一次評価					二次評価				
評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
	4	4	3	2	B	4	4	3	2	B
今後の方向性	○ 拡大・充実	◉ 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等		○ 拡大・充実	◉ 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等	
	○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止			○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止		
当面の課題	厳しい財政事情で経営的経費にも削減が求められる状況ではあるが、生徒の安全性を考えると現状の管理業務は必要です。しかし、小学校同様コスト面を考えると見直しの検討も必要です。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点 安全で安心な教育環境の提供のため、適正な施設管理に努めてください。				
改革案と実行計画	平成20年度からは、簡易な修繕は建設労働組合阿波支部の協力により実施しています。今後も関係機関と協力、連携して適正な維持・管理を行います。									
委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

PLAN	No. 28 ー 6	基本事務事業名	中学校教育振興補助金事務	事務事業名	中学校教育振興補助金事務	公的関与	1	シート作成日	平成29年7月3日
	部局名	教育委員会	課名	学校教育課	主務課長名	成谷　史代		シート作成者名	曽我部　勉
	事業区分	○ 1 ソフト事業	○ 3 経常的事務事業	◉ 5 補助金・負担金・支援	事業運営方法	☑ 1 直営		☐ 3 全部委託	
		○ 2 ハード事業	○ 4 施設の維持管理	○ 6 内部管理事務・その他		☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等	
	総合計画	基本構想(政策)	1．人が輝くまちづくり	実施計画	事業の開始・終了				
		基本計画(施策)	(1)学校教育の充実	◉ 1 該当	平成　年 ～ 平成　年	☑ 期間設定なし			
		主要施策	(2)「生きる力」の育成を重視した教育内容の充実	○ 2 非該当	根拠法令等	学校教育法、教育基本法			
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)	阿波市内全ての中学校生徒						
		目的(どういう状態にしたいのか) 最終的	中学校教育が円滑で継続的に実施されるよう、必要な財政上の支援を講じて教育の振興を図ります。						
		今年度							
	事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)							
		① 生徒会活動に必要な補助を行います。							
		② 特別支援学級の円滑な運営に必要な補助を行います。							
		③ 進路指導に必要な補助を行います。							
		④ 生徒派遣に必要な補助を行います。							
		⑤ 遠距離通学の生徒に必要な通学費補助を行います。							

数値目標(事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名	計算式又は指標設定理由	単位		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	最終目標
	補助項目	教育行政の責務なので目標設定にはなじまない。	数	目標				
				実績	9	9		
				目標				
				実績				
				目標				
				実績				

DO	予算費目	会　計	一般会計	款	10	教育費	項	3	中学校費	目	2	教育振興費

		平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算	備考
直接事業費	国庫支出金	千円	千円	千円	
	県支出金	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	
	その他特定財源	千円	千円	千円	
	一般財源	11,156 千円	10,513 千円	9,632 千円	
	計(A)	11,156 千円	10,513 千円	9,632 千円	
人件費(B)	正職員工数・経費	0.200 人　1,162 千円	0.200 人　1,164 千円	0.200 人　1,186 千円	
	臨時・嘱託職種				
	臨時・嘱託工数・経費	人　0 千円	人　0 千円	人　0 千円	
全体事業費(A＋B)		12,318 千円	11,677 千円	10,818 千円	

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

CHECK

	チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価	
必要性	1．市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	○ 少ない	◉ 大きい	生徒たちの「生きる力」をはぐくみ、教育水準の維持向上を図るためには必要です。	○ 少ない	◉ 大きい
	2．厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	○ ない	◉ ある		○ ない	◉ ある
	3．住民満足度の向上のために、現在の手段、方法等の改善の余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない
	4．住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	○ いる	◉ いない		○ いる	◉ いない
有効性	1．施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	○ いえない	◉ いえる	生徒たちの「生きる力」をはぐくみ、教育水準の維持向上を図るためには必要です。しかし。項目の中には、金額等の見直しが必要です。	○ いえない	◉ いえる
	2．事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	◉ いえない	○ いえる		◉ いえない	○ いえる
	3．市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	○ する	◉ しない		○ する	◉ しない
	4．事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	○ できない	◉ できる		○ できない	◉ できる
達成度	1．目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	○ 目標に比べて劣っている		中学校教育の振興が図られています。	○ 目標に比べて劣っている	
	2．目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	○ あまり上がっていない			○ あまり上がっていない	
	3．目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	◉ 概ね達成している			◉ 概ね達成している	
	4．目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	○ 十分達成している			○ 十分達成している	
効率性	1．効果に比べてコストが高い。	○ 高い	◉ 適当	教育基本法に定めるところの、教育が円滑かつ継続的に実施されるための必要な財政上の事務なので、効率化の余地は少ないと思われます。しかし、項目の中には補助金として支出すべきか、実施手段を検討します。	○ 高い	◉ 適当
	2．他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	○ できる	◉ できない		○ できる	◉ できない
	3．予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	◉ ある	○ ない		◉ ある	○ ない
	4．電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない

ACTION

	一次評価					二次評価				
評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
	4	3	3	3	A	4	3	3	3	A
今後の方向性	○ 拡大・充実	◉ 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等		○ 拡大・充実	◉ 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等	
	○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止			○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止		
当面の課題	中学校教育の振興を図るためには財政上の支援は必要ですが、阿波市の厳しい財政状況を考慮すると補助事業の見直しが必要です。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
改革案と実行計画	補助事業の実績や近隣自治体の交付状況等を精査して、事業効果を検討していきます。項目の中には、補助金として支出するのが適当かどうか、検討していきます。					事業実績の評価をしながら改善に努めてください。				
委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

No.	28	ー	7	基本事務事業名	幼稚園管理運営事務	事務事業名	幼稚園管理運営事務	公的関与	1	シート作成日	平成29年7月3日
部局名	教育委員会	課名	学校教育課	主務課長名	成谷　史代	シート作成者名	板東充則				

PLAN

事業区分				事業運営方法	
○ 1 ソフト事業	◉ 3 経常的事務事業	○ 5 補助金・負担金・支援		☑ 1 直営	☐ 3 全部委託
○ 2 ハード事業	○ 4 施設の維持管理	○ 6 内部管理事務・その他		☐ 2 一部委託	☐ 4 補助等

総合計画			実施計画	事業の開始・終了	
	基本構想(政策)	1．人が輝くまちづくり			
	基本計画(施策)	(1)学校教育の充実	◉ 1 該当	平成　年 ～ 平成　年	☑ 期間設定なし
	主要施策	(2)「生きる力」の育成を重視した教育内容の充実	○ 2 非該当	根拠法令等	学校教育法、教育基本法、学校保健法

事業の対象・目的		
対象(誰を、何を)		阿波市内全ての幼稚園児
目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	幼稚園における施設の適正な維持管理により、安全・安心・快適な幼稚園教育を行います。
	今年度	

事業の活動内容

具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)

① 幼稚園施設の管理業務を専門業者に委託して、適正な維持・管理を行います。

② 学校医、歯科医及び薬剤師による園児及び職員の健康の保持増進や、薬剤師による環境衛生の維持・改善を図り、健康教育・安全教育の徹底を図ります。

③ 幼稚園保育料等の賦課、収納事務を行います。

④

⑤

数値目標(事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)

指標名	計算式又は指標設定理由	単位		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	最終目標
業務委託項目数	経常的管理業務なので目標値設定にはなじまない。	数	目標				
			実績	6	6		
			目標				
			実績				
			目標				
			実績				

DO

予算費目	会　計	一般会計	款	10	教育費	項	4	幼稚園費	目	1	幼稚園費

		平成 27 年度決算		平成 28 年度決算		平成 29 年度予算		備考
直接事業費	国庫支出金		千円		千円		千円	
	県支出金		千円		千円		千円	
	地方債		千円		千円		千円	
	その他特定財源	12,289	千円	11,889	千円	14,578	千円	
	一般財源		千円		千円		千円	
	計(A)	12,289	千円	11,889	千円	14,578	千円	
人件費(B)	正職員工数・経費	0.600 人 3,485	千円	0.600 人 3,492	千円	0.600 人 3,558	千円	
	臨時・嘱託職種							
	臨時・嘱託工数・経費	0.000 人 0	千円	0.000 人 0	千円	0.000 人 0	千円	
全体事業費(A＋B)		15,774	千円	15,381	千円	18,136	千円	

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

CHECK

	チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価	
必要性	1．市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	○ 少ない	● 大きい	園児が1日の大半を過ごす場所であるので、安全で安心な環境を提供する必要があることから、継続した施設の維持・管理は必要です。	○ 少ない	● 大きい
	2．厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	○ ない	● ある		○ ない	● ある
	3．住民満足度の向上のために、現在の手段、方法等の改善の余地がある。	○ ある	● ない		○ ある	● ない
	4．住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	○ いる	● いない		○ いる	● いない
有効性	1．施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	○ いえない	● いえる	日常の適正な管理により良好な環境が維持できます。	○ いえない	● いえる
	2．事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	○ いえない	● いえる		○ いえない	● いえる
	3．市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	○ する	● しない		○ する	● しない
	4．事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	○ できない	● できる		○ できない	● できる
達成度	1．目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	○ 目標に比べて劣っている		経年による施設の劣化もあるが、定期的に行う適正な維持・管理により、良好な教育環境が維持できています。また、園児及び職員の健康増進にもつながります。	○ 目標に比べて劣っている	
	2．目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	○ あまり上がっていない			○ あまり上がっていない	
	3．目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	○ 概ね達成している			● 概ね達成している	
	4．目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	● 十分達成している			○ 十分達成している	
効率性	1．効果に比べてコストが高い。	○ 高い	● 適当	施設管理の委託は、長期継続契約の適正な推進によりコスト削減に努めています。	○ 高い	● 適当
	2．他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	○ できる	● できない		○ できる	● できない
	3．予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	○ ある	● ない		○ ある	● ない
	4．電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	○ ある	● ない		○ ある	● ない

ACTION

	一次評価					二次評価				
評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
	4	4	4	4	A	4	4	3	4	A
今後の方向性	○ 拡大・充実	● 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等		○ 拡大・充実	● 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等	
	○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止			○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止		
当面の課題	柿原幼稚園を除く全ての幼稚園は新耐震基準適合、柿原幼稚園は耐震強度有りとの診断結果が出ているが、経年による劣化も見られることから、大規模な修繕が必要かと思われます。しかしこども園への移行も考えながら、検討する必要があります。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点 こども園への移行を考えながら、安全で快適な施設管理を維持してください。				
改革案と実行計画	小・中学校同様、管理業務の見直しや必要な修繕等により良好な教育環境を維持していきます。H30年度末に、久勝幼稚園が小学校へ引っ越し、園舎が解体となる。									
委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

PLAN	No. 28 ー 8	基本事務事業名	小学校英語活動事業	事務事業名	小学校英語活動事業	公的関与	9	シート作成日	平成29年7月7日
	部局名	教育委員会	課名	学校教育課	主務課長名	成谷　史代	シート作成者名	坂東　秀和	

事業区分	◉ 1 ソフト事業	○ 3 経常的事務事業	○ 5 補助金・負担金・支援	事業運営方法	☑ 1 直営 / ☐ 3 全部委託
	○ 2 ハード事業	○ 4 施設の維持管理	○ 6 内部管理事務・その他		☐ 2 一部委託 / ☐ 4 補助等

総合計画	基本構想(政策)	1．人が輝くまちづくり	実施計画	事業の開始・終了	
	基本計画(施策)	(1)学校教育の充実	◉ 1 該当	平成　年 ～ 平成　年	☐ 期間設定なし
	主要施策	(2)「生きる力」の育成を重視した教育内容の充実	○ 2 非該当	根拠法令等	学校教育法、教育基本法

事業の対象・目的	対象(誰を、何を)		阿波市内全ての小学生
	目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	外国語を通じて言葉や文化について理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成します。
		今年度	

事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)
	① 全ての小学校の全学年で、日本人英語講師の指導による年間35時間の英語活動を行います。
	② 月に1時間、外国語指導助手(ALT)、担任教師及び日本人英語講師による英語活動を行います。
	③ 小・中連携協議会を定期的に開催し、より良い英語活動の実践について研究します。
	④
	⑤

数値目標(事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名	計算式又は指標設定理由	単位		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	最終目標
	英語講師配置校	全小学校に配置	数	目標	10	10	10	10
				実績	10	10		
	年間時間数	より多くの時間英語に親しむ必要があります。	学習時間	目標	35	35	35	35
				実績	35	35		
				目標				
				実績				

DO	予算費目	会　計	一般会計	款	10	教育費	項	2	小学校費	目	2	教育振興費

		平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算	備考
直接事業費	国庫支出金	千円	千円	千円	
	県支出金	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	
	その他特定財源	千円	千円	千円	
	一般財源	1,022 千円	1,003 千円	965 千円	
	計(A)	1,022 千円	1,003 千円	965 千円	
人件費(B)	正職員工数・経費	0.070 人　407 千円	0.070 人　407 千円	0.070 人　415 千円	
	臨時・嘱託職種	英語指導講師	英語指導講師	英語指導講師	
	臨時・嘱託工数・経費	6.000 人　12,960 千円	6.000 人　12,960 千円	6.000 人　12,960 千円	
全体事業費(A＋B)		14,389 千円	14,370 千円	14,340 千円	

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

CHECK

	チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価	
必要性	1．市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	○ 少ない	◉ 大きい	国際化が進行する現在、将来的に国際社会で活躍できる人材を育成するためには、できるだけ早い段階から外国の言葉や文化に触れ親しむことは極めて重要であり必要なことです。	○ 少ない	◉ 大きい
	2．厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	○ ない	◉ ある		○ ない	◉ ある
	3．住民満足度の向上のために、現在の手段、方法等の改善の余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない
	4．住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	○ いる	◉ いない		○ いる	◉ いない
有効性	1．施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	○ いえない	◉ いえる	23年度から5･6年生を対象に英語活動が完全実施されています。阿波市では18年度からいち早く実施し、子どもたちが楽しみながら、英語に親しみ、英語に対する意欲の向上に大きな成果が見られます。	○ いえない	◉ いえる
	2．事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	○ いえない	◉ いえる		○ いえない	◉ いえる
	3．市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	○ する	◉ しない		○ する	◉ しない
	4．事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	○ できない	◉ できる		○ できない	◉ できる
達成度	1．目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	○ 目標に比べて劣っている		英語のゲームや英語の絵本、音楽に触れることで、子どもたちの関心や意欲も高まり、事業の目的が概ね達成できているように思われます。	○ 目標に比べて劣っている	
	2．目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	○ あまり上がっていない			○ あまり上がっていない	
	3．目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	◉ 概ね達成している			◉ 概ね達成している	
	4．目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	○ 十分達成している			○ 十分達成している	
効率性	1．効果に比べてコストが高い。	○ 高い	◉ 適当	義務教育における教育活動の一環として行っていることから、効率化の余地は少ないと思われます。	○ 高い	◉ 適当
	2．他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	○ できる	◉ できない		○ できる	◉ できない
	3．予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない
	4．電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない

ACTION

	一次評価					二次評価				
評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
	4	4	3	4	A	4	4	3	4	A
今後の方向性	○ 拡大･充実	◉ 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等		○ 拡大･充実	◉ 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等	
	○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止			○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止		
当面の課題	小学校英語活動から中学校英語学習への効果的なつながりを検証し、実践していく必要があります。また、中学校の教師を対象とした中学校英語へのスムーズな移行の在り方や指導法に関する研修が必要です。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点 小･中学校の連携をさらに強化して、指導方法等を検討しながら、より積極的に実践してください。				
改革案と実行計画	小学校6年間の英語活動が中学校の英語教育にスムーズに移行できるよう、小･中連携を強化･推進していきます。									
委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

No.	28	ー	9	基本事務事業名	小学校理科教育振興事業	事務事業名	小学校理科教育振興事業	公的関与	2	シート作成日	平成29年6月28日
部局名	教育委員会	課名	学校教育課	主務課長名	成谷　史代	シート作成者名	中西　弥生				

PLAN

事業区分	◉ 1 ソフト事業	○ 3 経常的事務事業	○ 5 補助金・負担金・支援	事業運営方法	☐ 1 直営　☐ 3 全部委託
	○ 2 ハード事業	○ 4 施設の維持管理	○ 6 内部管理事務・その他		☐ 2 一部委託　☑ 4 補助等

総合計画	基本構想(政策)	1．人が輝くまちづくり	実施計画	事業の開始・終了	
	基本計画(施策)	(1)学校教育の充実	◉ 1 該当	平成 17 年 ～ 平成 年	☑ 期間設定なし
	主要施策	(1)学校施設の整備	○ 2 非該当	根拠法令等	理科教育振興法

事業の対象・目的	対象(誰を、何を)		阿波市内の小学校
	目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	小学校の理科・算数教育の充実に必要な教材備品の整備を行います。
		今年度	

事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)
	① 小学校の理科・算数教育の充実に必要な教材備品の整備を行います。
	② 国庫補助金の申請を行います。
	③ 交付決定後、備品購入事務を行います。
	④
	⑤

数値目標(事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名	計算式又は指標設定理由	単位		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	最終目標
	整備率	設備の充実を図るため	%	目標	97	97	97	100
				実績	97	97		
				目標				
				実績				
				目標				
				実績				

DO

予算費目	会　計	一般会計	款	10	教育費	項	2	小学校費	目	2	教育振興費

		平成 27 年度決算		平成 28 年度決算		平成 29 年度予算		備考
直接事業費	国庫支出金	750	千円	749	千円	750	千円	
	県支出金		千円		千円		千円	
	地方債		千円		千円		千円	
	その他特定財源		千円		千円		千円	
	一般財源	887	千円	857	千円	840	千円	
	計(A)	1,637	千円	1,606	千円	1,590	千円	
人件費(B)	正職員工数・経費	0.030 人 174	千円	0.030 人 175	千円	0.030 人 178	千円	
	臨時・嘱託職種							
	臨時・嘱託工数・経費	0.000 人 0	千円	0.000 人 0	千円	0.000 人 0	千円	
全体事業費(A＋B)		1,811	千円	1,781	千円	1,768	千円	

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

CHECK

	チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価	
必要性	1．市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	○ 少ない	◉ 大きい	国庫補助事業なので、小学校の理科教育の充実・振興には重要であり、今後も活用していきます。	○ 少ない	◉ 大きい
	2．厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	○ ない	◉ ある		○ ない	◉ ある
	3．住民満足度の向上のために、現在の手段、方法等の改善の余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない
	4．住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	○ いる	◉ いない		○ いる	◉ いない
有効性	1．施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	○ いえない	◉ いえる	毎年度計画的に実施することにより、各学校で必要な教材が整備できます。	○ いえない	◉ いえる
	2．事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	○ いえない	◉ いえる		○ いえない	◉ いえる
	3．市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	○ する	◉ しない		○ する	◉ しない
	4．事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	○ できない	◉ できる		○ できない	◉ できる
達成度	1．目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	○ 目標に比べて劣っている		平成17年度より、計画的に毎年3校、1校につき約50万円ずつ整備しており、教育の充実・振興が図られています。	○ 目標に比べて劣っている	
	2．目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	○ あまり上がっていない			○ あまり上がっていない	
	3．目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	◉ 概ね達成している			◉ 概ね達成している	
	4．目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	○ 十分達成している			○ 十分達成している	
効率性	1．効果に比べてコストが高い。	○ 高い	◉ 適当	補助率は2分の1のため効果的です。	○ 高い	◉ 適当
	2．他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	○ できる	◉ できない		○ できる	◉ できない
	3．予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない
	4．電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない

ACTION

	一次評価					二次評価				
評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
	4	4	3	4	A	4	4	3	4	A
今後の方向性	○ 拡大・充実	◉ 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等		○ 拡大・充実	◉ 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等	
	○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止			○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止		
当面の課題	全体での整備率は高いが、依然各学校ごとに差があるため、現状を把握し学校間の格差の是正を図っていきます。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点 継続して整備を図り、効果的な活用に努めてください。				
改革案と実行計画	理科教育設備整備費等補助事業を有効に活用し、理科教育の充実・振興を図っていきます。									
委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

PLAN	No. 28 ー 10	基本事務事業名	中学校理科教育振興事業	事務事業名	中学校理科教育振興事業	公的関与	2	シート作成日	平成29年6月28日
	部局名	教育委員会	課名	学校教育課	主務課長名	成谷　史代	シート作成者名	中西　弥生	
	事業区分	◉ 1 ソフト事業	○ 3 経常的事務事業	○ 5 補助金・負担金・支援	事業運営方法	□ 1 直営	□ 3 全部委託		
		○ 2 ハード事業	○ 4 施設の維持管理	○ 6 内部管理事務・その他		□ 2 一部委託	☑ 4 補助等		
	総合計画	基本構想(政策)	1．人が輝くまちづくり	実施計画	事業の開始・終了				
		基本計画(施策)	(1)学校教育の充実	◉ 1 該当	平成 17 年 ～ 平成 年	☑ 期間設定なし			
		主要施策	(1)学校施設の整備	○ 2 非該当	根拠法令等	理科教育振興法			
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)	阿波市内の中学校						
		目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	中学校の理科・数学教育の充実に必要な教材備品の整備を行います。					
			今年度						
	事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)							
		① 中学校の理科・数学教育の充実に必要な教材備品の整備を行います。							
		② 国庫補助金の申請を行います。							
		③ 交付決定後、備品購入事務を行います。							
		④							
		⑤							

数値目標(事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名	計算式又は指標設定理由	単位		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	最終目標
	整備率	設備の充実を図るため	%	目標	97	97	97	100
				実績	97	97		
				目標				
				実績				
				目標				
				実績				

DO	予算費目	会　計	一般会計	款	10	教育費	項	3	中学校費	目	2	教育振興費

		平成 27 年度決算		平成 28 年度決算		平成 29 年度予算		備考
直接事業費	国庫支出金		250 千円		250 千円		250 千円	
	県支出金		千円		千円		千円	
	地方債		千円		千円		千円	
	その他特定財源		千円		千円		千円	
	一般財源		275 千円		360 千円		530 千円	
	計(A)		525 千円		610 千円		780 千円	
人件費(B)	正職員工数・経費	0.030 人	174 千円	0.030 人	175 千円	0.030 人	178 千円	
	臨時・嘱託職種							
	臨時・嘱託工数・経費	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円	
全体事業費(A＋B)			699 千円		785 千円		958 千円	

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

CHECK

	チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価	
必要性	1．市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	○ 少ない	◉ 大きい	国庫補助事業なので、中学校の理科教育の充実・振興には重要であり、今後も活用していきます。	○ 少ない	◉ 大きい
	2．厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	○ ない	◉ ある		○ ない	◉ ある
	3．住民満足度の向上のために、現在の手段、方法等の改善の余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない
	4．住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	○ いる	◉ いない		○ いる	◉ いない
有効性	1．施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	○ いえない	◉ いえる	毎年度計画的に実施することにより、各学校で必要な教材が整備できます。	○ いえない	◉ いえる
	2．事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	○ いえない	◉ いえる		○ いえない	◉ いえる
	3．市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	○ する	◉ しない		○ する	◉ しない
	4．事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	○ できない	◉ できる		○ できない	◉ できる
達成度	1．目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	○ 目標に比べて劣っている		平成17年度より,計画的に毎年1校約50万円ずつ整備しており、理科教育の充実・振興が図られています。	○ 目標に比べて劣っている	
	2．目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	○ あまり上がっていない			○ あまり上がっていない	
	3．目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	◉ 概ね達成している			◉ 概ね達成している	
	4．目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	○ 十分達成している			○ 十分達成している	
効率性	1．効果に比べてコストが高い。	○ 高い	◉ 適当	補助率は2分の1のため効果的です。	○ 高い	◉ 適当
	2．他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	○ できる	◉ できない		○ できる	◉ できない
	3．予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない
	4．電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない

ACTION

	一次評価					二次評価				
評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
	4	4	3	4	A	4	4	3	4	A
今後の方向性	○ 拡大・充実	◉ 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等		○ 拡大・充実	◉ 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等	
	○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止			○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止		
当面の課題	全体での整備率は高いが、依然各学校ごとに差があるため、現状を把握し学校間の格差の是正を図っていきます。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点 継続して整備を図り、効果的な活用に努めてください。				
改革案と実行計画	理科教育設備整備費等補助事業を有効に活用し、理科教育の充実・振興を図っていきます。									
委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

No.	28	ー	11	基本事務事業名	英語教育強化地域拠点事業	事務事業名	英語教育強化地域拠点事業	公的関与	9	シート作成日	平成29年6月28日
部局名	教育委員会		課名	学校教育課		主務課長名	成谷　史代			シート作成者名	中西　弥生

PLAN

事業区分			事業運営方法	
◉ 1 ソフト事業	○ 3 経常的事務事業	○ 5 補助金・負担金・支援	☐ 1 直営	☐ 3 全部委託
○ 2 ハード事業	○ 4 施設の維持管理	○ 6 内部管理事務・その他	☐ 2 一部委託	☑ 4 補助等

総合計画			実施計画	事業の開始・終了	
	基本構想(政策)	1．人が輝くまちづくり			
	基本計画(施策)	(1)学校教育の充実	○ 1 該当	平成 26 年 ～ 平成 29 年	☐ 期間設定なし
	主要施策	(2)「生きる力」の育成を重視した教育内容の充実	◉ 2 非該当	根拠法令等	学校教育法、教育基本法

事業の対象・目的		
対象(誰を、何を)		阿波中学校区の小学校及び中学校
目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	英語教育の発展と充実を目指し、国際社会で活躍できる子ども達を育成するための取り組みを実践するとともに、指導方法や授業内容の研究開発を行います。
	今年度	第3年次で、研究の全体計画に基づき、コミュニケーション活動の展開、体験的な外国語教育にお実践、低学年の英語活を生かした高学年での教育課程や指導方法、評価方法の研究、小中高の円滑な接続を見通した系統性のある教育課程や指導方法、評価方法の研究等を進めていきます。

事業の活動内容

具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)

① 教員の英語力・授業力を高める実践的方策の研究
② 教員の英語力・授業力を高める研修モデルの研究
③ 小学校高学年の教科型「英語」における教育課程や指導方法、評価方法の研究
④ 小中学校の円滑な接続を見通した系統性のある教育課程や指導方法、評価方法の研究
⑤ 外国語科・外国語活動実践研究報告会の開催

数値目標(事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)

指標名	計算式又は指標設定理由	単位		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	最終目標
文部科学省加配教員	伊沢小学校に配置	人	目標	1	1	1	1
			実績	1	1		
			目標				
			実績				
			目標				
			実績				

DO

予算費目	会　計	一般会計	款	10	教育費	項	1	教育総務費	目	2	事務局費

		平成 27 年度決算		平成 28 年度決算		平成 29 年度予算		備考
直接事業費	国庫支出金		1,392 千円		1,566 千円		2,099 千円	
	県支出金		千円		千円		千円	
	地方債		千円		千円		千円	
	その他特定財源		千円		千円		千円	
	一般財源		千円		千円		365 千円	
	計(A)		1,392 千円		1,566 千円		2,464 千円	
人件費(B)	正職員工数・経費	0.300 人	1,743 千円	0.300 人	1,746 千円	0.300 人	1,779 千円	
	臨時・嘱託職種							
	臨時・嘱託工数・経費	人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円	
全体事業費(A＋B)			3,135 千円		3,312 千円		4,243 千円	

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

CHECK

	チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価	
必要性	1．市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	○ 少ない	◉ 大きい	グローバル化社会を生きるために必要な語学力・対話力を備えた豊かなコミュニケーション能力を育むため、小中高校で連携のとれた教育環境を整備し、高校までを見通した研究開発を行うことは重要かつ必要です。	○ 少ない	◉ 大きい
	2．厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	○ ない	◉ ある		○ ない	◉ ある
	3．住民満足度の向上のために、現在の手段、方法等の改善の余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない
	4．住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	○ いる	◉ いない		○ いる	◉ いない
有効性	1．施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	○ いえない	◉ いえる	2020年度から5･6年生の外国語活動が教科「外国語」となる予定であるため、それに備えて今から準備を進めておくことは非常に意義があり、成果が期待できます。	○ いえない	◉ いえる
	2．事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	○ いえない	◉ いえる		○ いえない	◉ いえる
	3．市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	○ する	◉ しない		○ する	◉ しない
	4．事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	○ できない	◉ できる		○ できない	◉ できる
達成度	1．目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	○ 目標に比べて劣っている		英語推進委員を中心に定期的に検討を重ね、小中連携の強化につなげることができました。また組織体制づくりを進める中で、小学校教員の英語教育に対する意識が高まってきています。	○ 目標に比べて劣っている	
	2．目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	○ あまり上がっていない			○ あまり上がっていない	
	3．目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	○ 概ね達成している			○ 概ね達成している	
	4．目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	◉ 十分達成している			◉ 十分達成している	
効率性	1．効果に比べてコストが高い。	○ 高い	◉ 適当	29年度が事業の最終年度のため、一部市費がありますが、大半が補助なので効果的です。	○ 高い	◉ 適当
	2．他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	○ できる	◉ できない		○ できる	◉ できない
	3．予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない
	4．電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない

ACTION

	一次評価					二次評価				
評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
	4	4	4	4	A	4	4	4	4	A
今後の方向性	○ 拡大･充実	◉ 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等		○ 拡大･充実	◉ 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等	
	○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止			○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止		
当面の課題	小学校教員の英語教育に対する意識が高まってきているとはいえ、英語講師に依存する傾向が強いのが現状です。どのようにすればお互いの専門性をかけ合わせた効果的な授業ができるか、研修をさらに充実させる必要があります。また、教科化に備えて学習到達目標の検討をはじめ、評価方法や評価内容等についても改善を目指して研修する必要があります。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点 計画的な研究開発を進めてください。				
改革案と実行計画	引き続き、学級担任の英語力･授業力向上のための取組を行います。学級担任と英語講師のそれぞれの良さを生かしたティーム･ティーチングの在り方及び指導内容や評価方法についてさらに研究を深めます。									
委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

No.	28	ー	12	基本事務事業名	奨学金貸与事業	事務事業名	奨学金貸与事業	公的関与	9	シート作成日	平成28年6月28日
部局名	教育委員会		課名	学校教育課	主務課長名	成谷　史代	シート作成者名	中西　弥生			

事業区分			事業運営方法	
○ 1 ソフト事業	○ 3 経常的事務事業	◉ 5 補助金・負担金・支援	□ 1 直営	□ 3 全部委託
○ 2 ハード事業	○ 4 施設の維持管理	○ 6 内部管理事務・その他	□ 2 一部委託	☑ 4 補助等

総合計画			実施計画	事業の開始・終了	
基本構想(政策)	1．人が輝くまちづくり				
基本計画(施策)	(5)青少年の健全育成		○ 1 該当	平成 26 年 ～ 平成 年	☑ 期間設定なし
主要施策	(1)健全育成体制の充実		◉ 2 非該当	根拠法令等	阿波市奨学金貸与条例、同規則

事業の対象・目的		
対象(誰を、何を)		高等学校、特別支援学校の高等部、高等専門学校、短期大学または大学に在学し、経済的な理由のため修学が困難で、かつ所得等の資格要件を満たした方
目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	学習意欲のある若者が経済的な理由で就学する機会が閉ざされないよう、経済的な負担を軽減し、就学の機会を確保します。
	今年度	

事業の活動内容

具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)

① 広報阿波、ACN、阿波市ホームページで制度の周知を行います。
② 奨学金貸与事業にかかる各申請の受付、審査委員会の開催、各通知の発送、奨学金貸与等の事務を行います。
③ 阿波市奨学金の返還にかかる事務を行い、債権の管理をします。
④ 旧阿波町・市場町奨学金の返還にかかる事務を行い、債権の管理をします。
⑤

数値目標(事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)

指標名	計算式又は指標設定理由	単位		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	最終目標
申請者数	申請に基づくものであることから目標値設定にはなじまない。	人	目標				
			実績	23	26		
貸与率	審査委員会で審査します。	%	目標	100	100		
			実績	100	100		
			目標				
			実績				

予算費目	会　計	一般会計	款	10	教育費	項	1	教育総務費	目	4	奨学金費

		平成 27 年度決算		平成 28 年度決算		平成 29 年度予算		備考
直接事業費	国庫支出金		千円		千円		千円	
	県支出金		千円		千円		千円	
	地方債		千円		千円		千円	
	その他特定財源		561 千円		1,182 千円		623 千円	
	一般財源		4,246 千円		4,404 千円		7,231 千円	
	計(A)		4,807 千円		5,586 千円		7,854 千円	
人件費(B)	正職員工数・経費	0.100 人	581 千円	0.100 人	582 千円	0.100 人	593 千円	
	臨時・嘱託職種							
	臨時・嘱託工数・経費	0.000 人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円	
全体事業費(A＋B)			5,388 千円		6,168 千円		8,447 千円	

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

CHECK

	チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価	
必要性	1．市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	○ 少ない	◉ 大きい	厳しい経済情勢が背景にあること、また無利息であるため、申請者は一定数います。阿波市の将来を担う優秀な人材育成のためにも有益な事業であり、行政の果たす役割は大きいものがあります。	○ 少ない	◉ 大きい
	2．厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	○ ない	◉ ある		○ ない	◉ ある
	3．住民満足度の向上のために、現在の手段、方法等の改善の余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない
	4．住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	○ いる	◉ いない		○ いる	◉ いない
有効性	1．施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	○ いえない	◉ いえる	経済的理由で就学が困難な若者にとっては、経済的負担の軽減につながり、就学の継続が可能になります。	○ いえない	◉ いえる
	2．事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	○ いえない	◉ いえる		○ いえない	◉ いえる
	3．市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	○ する	◉ しない		○ する	◉ しない
	4．事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	○ できない	◉ できる		○ できない	◉ できる
達成度	1．目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	○ 目標に比べて劣っている		申請に基づくものや所得基準があるため、申請者数や貸与者数の目標設定は困難ですが、事業の目標は達成できていると考えます。	○ 目標に比べて劣っている	
	2．目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	○ あまり上がっていない			○ あまり上がっていない	
	3．目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	○ 概ね達成している			○ 概ね達成している	
	4．目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	◉ 十分達成している			◉ 十分達成している	
効率性	1．効果に比べてコストが高い。	○ 高い	◉ 適当	申請者の経済的負担の軽減を目的としているので、効率化の余地は少ないと思われます。	○ 高い	◉ 適当
	2．他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	○ できる	◉ できない		○ できる	◉ できない
	3．予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない
	4．電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	○ ある	◉ ない		○ ある	◉ ない

ACTION

	一次評価					二次評価				
評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
	4	4	4	4	A	4	4	4	4	A
今後の方向性	○ 拡大・充実	◉ 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等		○ 拡大・充実	◉ 現状維持	○ 方法改善	○ 民間委託等	
	○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止			○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止		
当面の課題	平成27年度からは阿波市奨学金の返還が始まり、返還にかかる事務が増加しました。また、阿波市奨学金及び旧阿波町・市場町奨学金の未収金が発生しています。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点 奨学金貸与制度の周知と未収金の徴収に努めてください。				
改革案と実行計画	奨学金貸与制度の更なる周知に向けて、広報・ACN・ホームページを有効活用します。未収金については、返還請求の送付回数を増やしたり、臨戸訪問をするなど収納の強化を図ります。									
委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

PLAN	No. 28 ー 13	基本事務事業名	学力向上推進事業	事務事業名	学力向上推進事業	公的関与	9	シート作成日	平成29年7月7日
	部局名	教育委員会	課名	学校教育課	主務課長名	成谷　史代		シート作成者名	坂東　秀和
	事業区分	◉ 1 ソフト事業	○ 3 経常的事務事業	○ 5 補助金・負担金・支援	事業運営方法	☑ 1 直営		☐ 3 全部委託	
		○ 2 ハード事業	○ 4 施設の維持管理	○ 6 内部管理事務・その他		☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等	
	総合計画	基本構想(政策)	1．人が輝くまちづくり	実施計画	事業の開始・終了				
		基本計画(施策)	(1)学校教育の充実	○ 1 該当	平成　年 ～ 平成　年	☑ 期間設定なし			
		主要施策	(2)「生きる力」の育成を重視した教育内容の充実	◉ 2 非該当	根拠法令等	阿波市学力推進講師に関する規則			
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)	阿波市内の小学校、中学校の児童生徒						
		目的(どういう状態にしたいのか) 最終的	確かな学力向上に向けた取組の充実を図り、質の高い教育を提供することにより、子育てにやさしいまちづくりに寄与します。						
		今年度	学力向上推進講師を配置し、チームティーチング(TT)や放課後学習を実施することで学力の向上を図ります。						
	事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)							
		① 阿波市内小中学校14校に7名の学力向上推進講師派遣し、講師1人につき2校を担当します。							
		② 学校教育課に学力向上推進コーディネーターを1名配置し、学力向上に関する総合アドバイザーとします。							
		③ 派遣校において、チームティーチング(TT)や放課後学習を実施します。							
		④							
		⑤							

数値目標(事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名	計算式又は指標設定理由	単位		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	最終目標
	放課後学習の時間数	時間／週	時間	目標	1	1	1	1
				実績	1	1		
	TT授業の時間数	時間／週	時間	目標	11	11	11	11
				実績	11	11		
				目標				
				実績				

DO	予算費目	会　計	一般会計	款	10	教育費	項	1	教育総務費	目	2	事務局費

		平成 27 年度決算		平成 28 年度決算		平成 29 年度予算		備考
直接事業費	国庫支出金	18,659	千円		千円		千円	
	県支出金		千円		千円		千円	
	地方債		千円		千円		千円	
	その他特定財源		千円		千円		千円	
	一般財源	1,928	千円	2,487	千円	3,162	千円	
	計(A)	20,587	千円	2,487	千円	3,162	千円	
人件費(B)	正職員工数・経費	0.200 人 1,162	千円	0.200 人 1,164	千円	0.200 人 1,186	千円	
	臨時・嘱託職種			学力向上推進講師		学力向上推進講師		
	臨時・嘱託工数・経費	人 0	千円	8.000 人 15,840	千円	8.000 人 15,840	千円	
全体事業費(A＋B)		21,749	千円	19,491	千円	20,188	千円	

阿波市全庁評価シート　平成28年度実施事業対象

CHECK

	チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価	
必要性	1．市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	○ 少ない	● 大きい	学習習慣が十分身に付いていない児童生徒に、確かな学力、学習習慣を身につけるための質の高い教育を提供する必要があります。	○ 少ない	● 大きい
	2．厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	○ ない	● ある		○ ない	● ある
	3．住民満足度の向上のために、現在の手段、方法等の改善の余地がある。	● ある	○ ない		● ある	○ ない
	4．住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	○ いる	● いない		○ いる	● いない
有効性	1．施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	○ いえない	● いえる	チームティーチング（TT）や放課後学習を実施し、生徒1人1人の実態に応じた教育の実施を図ります。	○ いえない	● いえる
	2．事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	○ いえない	● いえる		○ いえない	● いえる
	3．市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	○ する	● しない		○ する	● しない
	4．事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	○ できない	● できる		○ できない	● できる
達成度	1．目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	○ 目標に比べて劣っている		平成27年度において、KPIを達成しており、学力向上に向けた着実な取組を行っています。	○ 目標に比べて劣っている	
	2．目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	○ あまり上がっていない			○ あまり上がっていない	
	3．目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	● 概ね達成している			● 概ね達成している	
	4．目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	○ 十分達成している			○ 十分達成している	
効率性	1．効果に比べてコストが高い。	○ 高い	● 適当	学力向上への取組については、結果がすぐに現れものではなく、効率化の余地は少ないと思われます。	○ 高い	● 適当
	2．他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	○ できる	● できない		○ できる	● できない
	3．予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	○ ある	● ない		○ ある	● ない
	4．電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	○ ある	● ない		○ ある	● ない

ACTION

	一次評価					二次評価				
評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
	3	4	3	4	A	3	4	3	4	A
今後の方向性	○ 拡大・充実	● 現状維持	○ 方法改善		○ 民間委託等	○ 拡大・充実	● 現状維持	○ 方法改善		○ 民間委託等
	○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止			○ 縮小	○ 統合/終期設定	○ 廃止/休止		
当面の課題	学力向上への取組については、確立された方法がないため、効果的な指導方法、学習方法を実施していくために情報収集、情報交換、研修会を定期的に行っていく必要があります。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点 今後も授業の指導方法の改善等で、学力向上へに向けて取り組んでください。				
改革案と実行計画	学力向上推進講師及び教員への研修等を実施し、専門家、先進自治体等の取組を参考に阿波市の学力向上推進を図っていきます。									
委員会指摘事項										